マンスリーレポート
report

report

▪2007年8月のマンスリーNEWS

■コラム

アークル自販機設置先オーナー様へ大切なお知らせ（フルサービス先）

このたび、アークルでは7/21より自販機管理を新しいシステムに変更いたしました。

それに伴い、自販機売り上げのリベート支払いの方式が変わります。（条件等の変更はこれまで通りです。）

変更は8/20分、つまり9月の支払いから変更となります。

旧方式：カウンターによる本数から

新方式：ハンディーターミナルから算出する本数から

そこで、毎月お送りしているリベートの表現方法も変わりますのでご了承ください。

尚、ご不明な点などがありましたらお気軽にお問い合わせください。

■コラム

■暑中お見舞い申し上げます

■コラム

■年金制度は廃止だ～!

2005年の11月号のマンスリーニュースに年金の事を取り上げたのを覚えているでしょうか？

橘玲さんの「雨の降る日曜は幸福について考えよう」という本の中に年金の問題について書いてあったことを紹介したもの です。要約して少しご紹介します。（詳しくは当社ＨＰでご覧ください）

まず、基本的に年金問題は解決の出来ない問題なのです。つまり年金問題を議論するだけ時間の無駄とまで筆者は言い切ります。

日本の年金制度は、現役世代からの「仕送り」によって高齢者の生活を支える賦課方式を骨格としている。 少子化で労働力人口が減れば「仕送り」の額は少なくなり、高齢化が進めば年金支給額は際限なく膨らむ。この単純な理由によって、年金制度は必然的に破綻する。

多くの人が誤解しているが、年金制度とは国家の運営する保険事業に過ぎない。厚労省は 「年金制度は世代間の助け合い」と繰り返すが、国民の大多数は、支払った保険料以上の年金 を受け取るのが当然の権利だと考えている。国民年金の未納率は二十代では過半数を超えており、「保険加入は個人の自由」と考える層がやがて多数派になるだろう。

サラリーマンの妻 （第三者被保険者）は保険料を払わずに年金受給権を得ているが、年金も個人単位で管理すればこのような不公平はなくなる。これが国民が望む「公平で透明な年金制度」の姿だとすれば、それは任意加入・積立方式・個人単位の設計を基本とする民間保険そのものだ。

年金制度の矛盾は、国民が老後の生活を国家に依存することから生じている。だが、日本国 にはもはや、国民の生活を保障するだけの財政的余裕はない。どんな筋書きを用意しようとも、ドラマの結末はあらかじめ決められているのだ。

基本的に年金を自分のお金で賄わず、現役世代から賄うという考えが大間違いで、これじゃねずみ講と同じです。しかも、民間の年金なら途中解約に応じることは元より履歴が残っていないなんてことは

ありえません。

ところが、国がやると履歴なし・途中解約なし・25年間払わないと無効・強制徴収など話しにならない訳で、この際 一旦ここで、払ったものは全て戻し、全て個人でやるようにすればいいのではないかと、皆思っているのでしょう。しかしそのお金ももうないでしょう。

ところで参院選の選挙結果、自民党惨敗でしたね。敗北要因は閣僚の不適切発言や、年金問題、そして住民税が増えたと同時に定率減税の廃止時期が同じだったことなどがあります。要は閣僚の不適切発言を除けば、我々の生活に密着する問題が非常に多いということです。この次の大きな議論は消費税アップの問題です。
現在安倍首相の辞任の問題が大きくなっています。辞めてもらうのは結構ですが、社会保険庁の歴代の長官や役人をすべて刑務所へ入れて、くすねた年金を返却してからにしてほしいと思うのは私だけ？（だいたひかる風）

つまりは安倍首相が辞めて何かが変わるのであれはいいのですが、何も変わらないのであれば社会保険庁歴代の役人の思う壺でしょう。

■コラム

■朝鮮日報・社説第2弾

ある友人からニュースの読み方について話しをしているときに、「日本のニュースだけ読んでたじゃダメだよ」という指導を賜りました。ちなみに面白いから読んでみたらと薦められたのが、「朝鮮日報」の社説です。「朝鮮日報」と言えば韓国の最大に新聞で、インターネットで日本語版が出てますので気軽に読むことが出来ます。

そして読み始めると面白いことに気付きます。それは何かというと、「日本人がアメリカと比較する」ように韓国人が自国の事について日本とよく比較するということです。そしてその内容は日本が優れているに対して、自国の政治家は何をやっているんだ、的な発言が多いことに気付きます。日本の新聞が自国の政治を批判することが多いのを、よく目にしますが、朝鮮日報を読んでいると日本てそんなに捨てたもんじゃないと思ってくるから不思議です。

ということで、先月号では日本と韓国の物価に関して記事を取り上げました。実はそのコラムが大変評判いいのです。とても面白かったという意見をいただきました。そこで今月号ではその第2弾として車業界の日本との比較記事を取り上げたいと思います。

自動車業界：日本は輸出で、韓国は内需で稼ぐ

不振にあえいでいた日本の中小自動車メーカーが復活しつつある。自国内の自動車価格は10年前と同じレベルだが、企業の競争力は逆に回復しつつあるのだ。トヨタ・ホンダはもちろん倒産直前だった三菱自動車までが復活しつつある背景には、韓日両国の自動車業界の競争力の差が如実に表れている。

韓国の自動車メーカーは、海外で稼げない分を国内販売でまかなっているという非難を受けている。しかし日本メーカーは激しい自国内での競争故に、このような戦略は基本的に不可能だ。日本では価格を上げられないので、下がり続ける収益率は経費節減の努力と海外市場でまかなっている。

現代自動車の昨年の営業利益率（韓国と海外の合計）は4.5%だった。しかし現代自の関係者によると海外で今やそれが1%台にすぎない。結局全体の営業利益率を4.5%にまで引き上げるには、韓国市場で引き続き価格の引き上げを行うしかないことになる。さらに過激な労働組合のため、韓国内の工場の生産性は下がり賃金は上がるという高費用構造から脱却できておず、その結果収益率の悪化を防ぐには販売価格に転嫁せざるを得ないということだ。

日本は韓国と正反対だ。トヨタの昨年の営業利益率は9.3%、ホンダは7.7%だった。日本の自動車業界の専門家によると、 日本国内の競争があまりにも激しいので、トヨタやホンダでさえも2%台の収益率しか上げられない状況だという。メーカー ごとに内需で生き残るには骨を削るような努力を傾けるしかない状況だ。

サムスン証券リサーチセンターのキム・ハクジュ氏は「現代自のように海外で下がり続ける収益率を韓国内での価格引き上 げで挽回（ばんかい）する戦略は長続きしないだろう」と予測した。現代自はウォン高などの外部環境の困難を克服し、自ら 経費削減の努力を通じて海外市場でより高い収益性を確保すべきということだ。逆に自国市場では価格の引き上げを抑制する のが、長期的な観点での収益性確保にプラスに作用すると専門家は指摘する。

崔源錫

（チェ・ウォンソク）記者

日本車と韓国車の価格比較

この記事も日本車メーカーの比較記事になります。　現在の背景が円安・ウォン高といった状態なのでこの記事をストレート受け入れるのはどうかと思いますが、日本車メーカーも超円高を乗り越えて来た歴史があります。韓国車メーカーが今後ウォン高をどう乗り越えていくは大変興味あります。

それにしても、左記の比較。結構日本車って価格もがんばってるな。シンプルに思います。

韓国には「克日」という言葉があるそうです。これは” 日本に追いつくこと”という意味だそうです。

今年の12月に韓国大統領選挙が行われます。これからはお隣韓国にも少し目を向けてニュースを読んでいこうとと思っています。

■コラム

■激ウマ!B級グルメ情報□第4弾

今回は大和にある太田屋さんというお肉屋さんのメンチカツを紹介します。このメンチカツが凄いのです。私が行ったのが土曜日の夕方。そこにはなんと行列が・・・・・

このメンチカツはとにかくメンチカツは美味しいです。ちょうど訪問したときは揚げたて状態。注文すると袋に入れてくれるのですが揚げたては

アツアツで、袋の口を閉じることができません。袋の中の香りがまたなんとも食欲をそそるミートな香り（デブヤ風表現）です。

我慢できなかったので、買った直後その場でかぶりつきました。するとまるで小龍包のように中から肉汁が飛び出してきます。思わずズボンを汚してしまいました。

聞くところによると、この太田屋さんは地元の高座豚にこだわっているようで、このメンチカツも高座豚と前沢牛の合い挽きを使用しているようです。また揚げる際に使う油も高座豚のラードを使用しているそうで、衣のサクサク感はなんとも言えません。

また、オーナーはハム・ソーセージの国際コンテストでグランプリを獲得しているほどの超一流の腕を持つ職人ですのでウインナーやベーコンなどの加工品も大変評判がいいそうです。

ちなみに高座豚は大変飼育に手間がかかるそうで、市場にはほとんど出回らないようです。この豚の特徴はなんと言っても脂身で肉全体 の3分の2以上はを占めるそうです。しかも、赤味には肉のうまみ成分イノシン酸がたっぷりとのこと。皆様是非お試しあれ。

■コラム

■金融のメタボリック化？

私の友人（Ｓさんとしておきます）に非常に興味深いが方います。彼は約10年前に○○総合研究所という超一流企業を脱 サラし、ＩＴ関連の仕事を個人で営んでいます。

しかしＳさんはその仕事を本業では無いと言い切ります。「僕の本業は投資。そしてその投資でファイナンシャルフリーダム（*）を目指しているんだ。」

そのＳさんがなぜそのように考えるのか？先日その理由を明白にしたメールが届きました。なるほど！と思いました。Ｓさんの許可を得て今回このマンスリーに載せることにしました。皆さんはどう思いますか？

＊ファイナンシャルフリーダム　経済的自由、つまり一生お金に困らないこと。

[仕事は副業に過ぎない]

アメリカは莫大な貿易赤字国であるが、アメリカからドルがなくなったという話は聞かない。なぜかというと、アメリカは不足したドルを大量に印刷して、補っているからである。北朝鮮のささやかなドル印刷に目くじら立てるくせに、自らは印刷し放題なのは、いかがなものだろうか。

最近、中国の過剰流動性（マンスリー5月号参照）が話題になっているが、実は地球規模で過剰流動性が進行している。 20年間、いい製品を作り続けても、金持ちになるとは限らないが、大きな金を左右に動かせば１年で金持ちになれる時代に なった。これはアメリカのドル大量印刷が源流である。印刷機からでてきた大量のドルは、遊資となって、めぐりめぐって、投資ファンドに金が集まり、企業の株の買占めに使われる。村上ファンドもその１つだった。

90年代後半のアジア通貨危機では、ヘッジファンドがタイのバーツを大量に売り、一国の経済を破綻させるほどの資金力 があることを証明した。現在、スティールパートナーズが日本企業をおびやかしていて、彼らの性根の悪さが問題になっているが、これもアメリカの大量ドル印刷が源流なのである。

もはや、経済の主役は「産業」から「金融」に完全にシフトしてしまった。金融のメタボリック化である。

現在もアメリカは輪転機を回し続け、回転は速くなる一方だし、それでも間に合わなければゼロを1個余計につけたりす る。ますますメタボ金融は膨張している。だとすれば、投資家は、もっともメタボ化の激しい金融市場に足を突っ込んで、おこぼれにあずかるのが得策だ。「投資が本業で、仕事は副業にすぎない」というのは、ジョークでないことがおわかりいただけるだろう。

■コラム

■あの花は今どうなっている？

6月号・7月号掲載の梨の花とブルーベリーの花は今ではこんなに立派な実をつけました。（7/31撮影）

↓

↓

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

小田原（営）所長さんが、京都へ家族旅行したそうです。所長さんにとっては過酷な旅行だったようです。
詳しくはブログでどうぞ。目玉オヤヂさんはルート同行でかなりやせたといううわさです。うわさは本当か！？

ただいまブログは9名が更新中です。

・所長のブログ（小田原Ｈ所長）

・チーフの給湯室（小田原Ｍチーフ）

・情報最前線（海老名Ｋ所長）

・促進課目玉オヤヂ（販売促進課Ｈさん）

・促進課オヨヨ

・販促課オオクワ80mm

・産地直送！新鮮ネタ（海老名Ｎチーフ）

・つんつるてんおのおの方『現在お休み中』

・古本おやじの独り言（９８キロの人面冷凍マグロ）

オオクワ80mmさんのオオクワです

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

■2007年度のマンスリーＮＥＷＳ		
	2007.07	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2007.06	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2007.05	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2007.04	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2007.03	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2007.02	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2007.01	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ

■マンスリーＮＥＷＳアーカイブ		
	最新	マンスリーＮＥＷＳトップページ
	2006年度	２００６年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2005年度	２００５年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2004年度	２００４年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	番外編	マンスリーレポート番外編

(c)copyright ARCRU co.,ltd All rights reserved.